桜桒

発行所
郡山市外徳定字中河原1
日大東北工高同窓会
発行人　半沢　忠
編集人　吉沢克也

会長に半澤君再選さる

第6回総会もなごやかに

第六回定期総会は、正月二日正午より例年の通り郡山商工会議所ホールにおいて開かれた。庄司教頭をはじめ恩師多数の御出席と新春早々の発溌たる顔ぶれの三十数名の会員が一堂に会し、まづ小林君の開会の辞で始められた。会長半沢君の挨拶に続き来賓各位の辞が述べられ、三十五年度一般経過報告、宮都宮支部長増子君から支部結成などの現況報告があり、三十五年度会計報告も承認されて議事に入つた。

①規約改正（役員の任期）の変更②三十六年度運動方針、③役員改選などを審議した。規約改正については従来通りとし、新役員は本部原案で一応可決し、半沢君が再び会長に決つた。他の役員については会長一任とし、後日決定することにして議事を終了した。

次いで懇親会に移り、昨年の運動方針であつた"母校との繋がりを深める"こと等について恩師を囲んで話し合つた。かくし芸、校歌の合唱などで昔の仲間に返つて愉快に時を過ごし、紅潮した顔に再会を約して「若きエンジニヤ」の合唱を最後に散会した。

〔審議中の総会寸景〕

今後の活動に拍車

まとまつた茨城支部

日立製作所勤務の会員を主とした茨城支部も他の支部に優るとも劣らぬ活動を続けている。同社内が殆んどのため連絡は密で、それだけにまとまりのある支部を形成している。現在支部員は三十七名おり、支部長に近内功夫君（二電気）が選ばれて今後の活動に一段と拍車がかけられ、大いに期待がもたれる。

新年会を兼ねて支部大会開く

一月末日、新年会を兼ねた支部大会が日立製作所の初崎保養所において開かれた。ここは海岸に近く、海に面した大広間からは被浜が広がる素晴らしい光景もられる静かな地である　出席した三十余名の支部員は、屠蘇も混つてなごやかに打ち解け、久し振りに楽しい会合であつた。

本田君日立茨工専に合格す

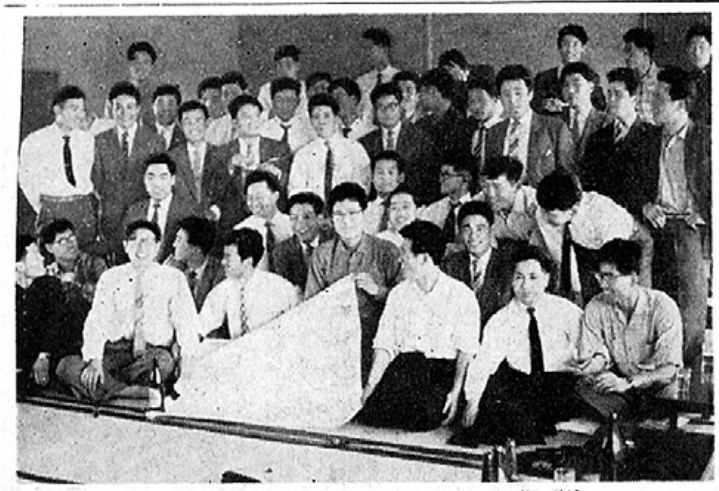
日立製作所が設立した社内学校茨城工業専門学校に本田豊治君（一期機）が支部会員のうち初めて合格し入学した。この学校の受験資格は社内の高校卒者の若人に限られ、就学は一ケ年で、ここを卒業した者は大学卒と同程度の待遇が与えられて将来社の幹部クラスの有望者ということになる。いわば幹部の錬成所のようなところである。ここへの入学は、先づ各職場の選抜試験を通つたものが職長の推せんによつて今度は各工場及び事業所の選抜試験を受ける資格が与えられ、これに通つた者二十余名位どの中から更に試験によつて合格した者のみが入学許可を与えられるという極めて難関のコースである。

試験内容は短大卒程度の英・数・物・化の四科目で、本田君が見事この関門を突破したことは会の名誉であると共に、母校の名誉でもあり、同輩、後輩も「本田君に続け」という目標の下に頑張つている。

若さ、会場いっぱいに

―第四回・関東支部大会―

第四回関東支部総会は晴天にめぐまれた五月二十八日（日）大森の平和島温泉において開かれ、来賓として本部より半沢会長、宇都宮支部長を招き、会員五十数名が出席して行われた。定刻までに全員が集まり、久し振りに見る顔や初顔もあり、若さが会場に溢れる支部長の高原君の挨拶に引続いて来賓からも祝辞や現況報告などがあつて、それぞれに活動の様子が伺える。一般経過報告と会計報告などを佐川君が報告し、報告通り承認した。再び支部長高原君が立ち、今後とも互に励し合つて頑張ろうと力説し議事を終えた。のち宴会に入つた。平和島温泉はヘルスセンターでもあり、日曜とあつて労を慰やす人達でにぎやかだつた。酔がまわるに従つて、なつかしい歌や踊りが出て、先輩も後輩も互に一緒になつて調子を取り、歌う踊るの大熱演、暫し時の経過も忘れて楽しんだ。一風呂浴びてから、全員が寄せ書きをして記念撮影の後、来年の再会を約して終会した。



〔撮影記念で顔笑顔で寄書き〕

宇都宮も支部結成

少勢ながら活動盛ん

宇都宮支部結成準備は、三十四年の十一月に成り、最初は富士重工宇都宮製作所の勤務者のみで結成したが、昨年十二月に新たに三菱製作所の会員も含めて発足した引地会長以下十四名の少勢ながら活発な動きを見せ会員個人も又二社にあつては中堅どころとして活躍している者もおり、それだけに将来の発展性は大いに可能である。

宇都宮市は北関東の中心地、全くの商業都市で、人口約二十万強を有し、冬は日光の男体嵐が吹きつけ、朝夕は大陸性気候を思わせるようにひどい冷え込みで、そのためか住みにくいといわれる処である。海には遠いが、山は近くにいくらでもあり、特に奥日光を中心に夏山や冬山は我々若人の夢をしいたか。一方、労働組合関係では一昨年全国金属栃木地本職長を務め、新聞で全国的に大々と取り上げられた三池炭労の争議の現地に支援に出かけて来た引地君（二電力）も光つている。その他長沢君（二機）は支部幹事として、支部内の活動の企画その他について東西奔走している。ノギスやマイクロメーターの計測器具の製造で知られた宇都宮の三菱製作所に勤務している柳沼君（一機）はこの組合長として活躍している。

支部の運営は毎月百円の会費を徴収して行い、これより慶弔金や後援が入社試験に来た時の世話の費用などに充てている。その主なものは、結婚祝金三千円、弔慰金五千円、病気見舞金五百円、子女誕生千円などであるが、最近の値上りブームに便乗して、これらをいく分値上げしようという話も出ている。

また支部会員が結婚する際には会費制で披露宴を催し祝いたいなどの意見もあつて、まとまりの良いところを見せており、今後は各支部との連絡を密にして相互の親睦を更に深めて行きたいと希望を述べている。

連絡先　栃木県宇都宮市春日町六七八　雄飛寮　増子禎佑。

求職率（36. 11. 25現在）

項目／科名	(A) 就職希望者数	(B) 求人件数	(C) 求職申込者数	(D) 求職率 C/A
建設	114	164	264	2.3倍
機械	94	345	680	7.2倍
電気	112	251	561	5 0倍
工化	94	174	369	3.9倍
普通	85	198	397	4.7倍
計	499	1.132	2.271	4.6倍

就職率（36. 11. 25現在）

項目／科名	(A) 就職希望者数	(B) 就職決定者数	(C) 決定未者数	(D) 就職率 B/A
建設	114	105	9	92.1%
機械	94	90	4	95.7%
電気	112	106	6	94.6%
工化	94	75	19	79.8%
普通	85	75	10	88.2%
計	499	451	48	90.4%

母校の就職展望

〔昭和36年11月25日現在〕

就職担当　米良邦保先生

本年度の就職関係の状況を顧つて見ると、非常に紀伏に富んだ年であつたと思はれる。

即ち前半四月十八日の非公式求人を第一号とし、夏休み前までに二一四社、八十七名の採用内定者が早くも出現し、いわゆる岩戸景気を裏書するように好調なスタートであつた。私共もこの分では十月頃までには一応の目鼻が立つものと内心喜んでいたところが、後半つまり九月末頃の緩済引締の政策のためか次第に株の暴落や倒産する会社が現われ始め、その影響からか、十月頃から急激に求人の出足が衰え、不採用の返送通知もめつきり増えるという現象が見え出し、巷のうわさ通り不景気到来の兆かと不穏な危惧を抱かざるを得ない状況になつてしまつたのである。

このような変化の激しい時期にありながらも、ともあれ一応年内には全員就職決定の見込みが立てられたことは、誠に喜ばしい限りであり、就職を決定した諸君の前途を祝さないわけにはゆかぬのである。参考に十一月二十五日現在の就職状況を発表するならば、次のようになる。即ち、学校直接の求職件数八四社　安定所経由の求職件数二四八社、計一一三二社となり、延べ二三七一人の求職者数となる。これを各科別に詳細に分類すれば表のようになる。

「注」求人件数は募集条件などの不備により求人状況をしないものも含む。

この表を見ると、求職者は平均約五社の中から一社を選べば良いという恵まれた条件であることが解り、逆に事業所側からいわすれば、如実に求人難を裏付ける数であることにもなるわけである。

また十一月二十五日現在における就職率は九〇・四パーセントとすこぶる良好な結果が現われているのである。

初任給は昨年よりも二割増で平均給与が一万二千円となつている。

今年度は従来まで求人のなかつたいわゆる大企業からの求人が目立ち、従つて近来にない大口への採用決定も続出したのである。

主なる各科別の就職先を挙げてみると、

▼建設科

大成建設、帝都高速度交通営団、相模鉄道、安藤組、前田建設、秋鼎建設、高野建設、小川組、池田建設、戸田組、岡田舗装、東急不動産、勝丸建設、東京ボーリング

▼機械科

東京電力、協和ガス、日本ビクター、日曹製鋼、在主石鹸、ソニー、日立製作所、小松製作所、相模鉄道、日本ロール、八幡鋼管、岩崎通信機、パインミシン、帝都高速度交通営団、富士重工、東洋製罐

▼電気科

東北電力、東京電力、帝都高速度交通営団、日本電気精器、日立製作所、大成建設、富士製鉄、富士重工、石川島播磨重工、東京ガス、白河バルブ、ソニー、八幡鋼管、相模鉄道、パイオニア、東芝。

▼工化科

住友化学、協和ガス、大日本インキ、日曹製鋼、保土ケ谷化学、日東紡績、森永製菓、岩崎通信機、日立造船、白河バルブ、東京ガス、東北電力、日本ペイント、川崎化成、興国化学、日本ロール、協同乳業。

▼普通科

共同印刷、連合紙器、出光興産、日本ペイント、川崎化成、日東タイヤ、オリエンタルメタル、東芝鋼管、コーリン鉛筆、丸興、パラマウント硝子。

本部・支部役員

本部

会長　半沢忠（一機）
副会長　伊藤寿彦（一建）
書記　寺田広（二化）
同　郷司一弘（三化）
会計　広長威彦（一電）
同　柳沼力夫（一化）
編集長　吉沢克也（二普）
会計監査　石井真一（一建）
同　星野照雄（一電）
同　安瀬春雄（一建）
議長　柴橋千弘（三建）
副議長　安藤英一（三建）
同　野内裕元（七化）
同　若林伸駕（七化）
同　滝田勝利（七化）
同　清野誠二（七化）

関東支部

支部長　高原広康（二化）
副支部長　会田照男（二機）
同　増子国喜（三化）
書記　佐藤義家（二電）
同　古宮重信（二電）
会計　大山照男（一電）
同　佐川晴祥（二機）

茨城支部

支部長　近内功夫（二電）
副支部長　笛崎毓（四電）

幹事

日立地区　三本宮秀夫（三機）
同　七海義治（四電）
国分地区　赤沼長三（四電）
多賀地区　石井勝夫（五電）

宇都宮支部

支部長　引地忠（二電）
幹事　長沢進（二機）
同　増子禎佑（一電）

第七回　総会通知

第七回定期総会を次の通り開催します。今回は久し振りに初春の学園内に会し、広い徳定の野の新鮮な空気の下で楽しく語り合う会にする予定です。多数の出席をお願いいしします。

◆日　時　昭和三十七年一月二日〔火〕（正午より三時まで）
◆場　所　日大校友会館（母校学園内）
◆会　費　三百円（当日持参）

『嫁をとるなら名古屋に限る』

衣食住、三拍手とも豊か

一期工化　佐藤久男

名古屋へ転勤してから、すでに三年。もうすっかり空気に馴染んでしまったこのごろ。

母校而繇会の機関紙に何か書けとの御命令（明日の仕事の事も忘れて）はなはだ懐しく思いながら柄にもないようなよしなしごとをそこはかとなく書きつづりたいと思います。

ここ名古屋は、その伝統を象徴するかのような名古屋城で諸兄にも馴染み深いことかと思います。あの有名なシャチホコに連なる諸国も豊富で、昔から金メ専門の金ドロがネラツテいたことは御存知でしょう。あんな高い所にピカリピカリと光られていたんでは、変な気持も起ろうというもんです。いやけつして私なんぞは……。

聞けば、現在はあの金の裏面に頑丈な合成樹脂の皮膜を被せてあるとか。もはやドロ君も手も足も出ないという訳です。

さて、ここはあのにつくき台風の通り道としても知られていますが、伊勢湾台風の時は散々でした名古屋港付近の地盤沈下も一層拍車をかけているようで、当局の頭痛のタネとなつているようです。しかし臨海工業地帯の延びはものすごく某鉄鋼会社、某自動車工場など大手メーカーの工場が次々と建造され、わが国の最先端を突走つてる姿を見せております。

市内を走る二本の百米道路は、実際来て見ないことには想像出来ないほど素晴らしいもので、その規模で東洋一、いや世界一ともいわれる。駅前の地下街はここならではの素晴らしさでこれまた日本一を誇つている。

さてさて、ここに来る前からうわさに聞いていたその尾張人気質排他主義者が多いということを、考えてみれば東京と大阪の間に挟まれてるため「独立した名古屋としての発展」ということが、必然そうならざるを得ないというように考えていたんですが、ドツコイ鎖国は解けた様子。関東、関西の交流はますます盛んで、それが証拠に「花嫁さん」が、国外いや市外に嫁ぐことの多いこと。実際この若い女性のお稽古ごとの盛んなのには驚きで、いわゆる花嫁修業が活発で、それに花嫁道具なるものが実にデラックスと来ては、「嫁をとるなら名古屋に限る」とキャチフレーズのような謂も考えられます。いや、私なんぞ既にこの信念に徹してしまつた一人ですから念のため。

ここはまた生活費の安いことでも有名（知らん人が多いほど良いのかな）。六大都市の中では最も貯蓄高の多いところ……。もつとも近くに濃尾平野を控え、また繊維製品の本場でもある故。市内には日本有数といわれるモデル団地も完備して全くもつて衣食住と三拍子揃つて豊かなのでありますから……。

適当にこのくらいにして止めておかないと宣伝が効きすぎて諸君にわんさと押しかけられては尾張の美女達がオキノドク？ですし、まあ、お出の節は名物のキシメンなどを味わいつつ名古屋の良さを満喫していただけるものと思います。

（三菱モンサント化成勤務）

郷里の山

安達太良

七期N生

我々の郷土福島県は観光資源の多いところ。中でも母校の窓から眺望する眺めた安達太良と磐梯。それに最近ブームを巻起している磐梯吾妻スカイライン。諸兄も今頃になるとすつかり雪化粧したこれらの山並を、遥かに眺めながら寮校を急いだ昔日を思い出すことだろう。

吾妻スカイラインは一昨年に完成してから春秋絶えることのない遊覧客で賑わい、節には自動車の列が長蛇の如く続き、年間百数十万人というから、まさに売れつ子の観光地である。

ところが、私は乗物の旅が嫌いで、生憎く未だに出かけて居らず、そのスパラシサについて御紹介で きないのが誠に残念である。しかし私は山行きが三度の飯より好きだから、日曜の晴れた日はよく近辺の山に出かける。そこで最も好きな、多く登つた山、誰もが登れる山　安達太良について少々書くことにしたい。諸兄の中でも山の好きな人はもう幾度も登つて、詳しい人々も多いことと思うが、まだ知ない人もあるかと思い、ここに紹介の意味で書く。

二本松、本宮側には三ケ所の登山口がある。そのうち一番背景の美しいのが湯川渓谷の入口で、渓谷を根坂は湯川渓谷の入口で、渓谷を辿行すると、白樺林の中に農民の協力で建てられた塩沢農民温泉があり登山口にもまた広く利用されている。

雑木林の坂道を登つて山腹の捲き道を出ると、視界は急に展ける。深く切り込んだ足下の湯川、白樺の幹を斑らに光らせている対岸の山、そして行く手には山嶺の一郡も見え、やがて遥か下方に滝のしぶきが白樺林を通しかすんで見える。それは三階滝である。その滝を過ぎると目下数十メートルという岩が直立し畳を敷いたような絶列で屏風の如く張り出している岩場、屏風岩がある。その下に湯川の流れが糸を引いたように見える。八幡太郎義家が滝の姿に憂のことを想つたという滝が女性滝な姿で心をとらえる。誰もがここで一息入れる所で美しい眺めだ。渓谷はこの辺から最高度の美しさを展開する。

この沢の合流点、支流にかかる八幡滝は、サラサラと岩壁を這いゆるやかに落ち込む　階段状の岩を登つて滝の上方に立ち、一枚の岩を滑るように流れて来る沢の縁を登ると、川床をえぐるような急流の中に、沢中で一番美しい霧降りの滝が見える。幽玄な雰囲気の中にどうどうと落下する滝のしぶきを心ゆくまで浴びることができる。

これからは今までと全く違つた高原に出る、憎悩台である。六・七月頃は背よりも高いシヤクナゲが見事で薄バラ色の花の中で時間があつたら音楽でも聞きながら昼寝をしたら、まさに天国である。

高原の道は細く尾根を越して、ユバイソウの咲く東湯川源流を横切ると、鉄山と箕輪山の鞍部笹平へ出る。その名の通り一面の熊笹の原。そこからは、雄大な箕輪山が眼前に座し、福島盆地の中に阿武隈山脈、そして蛇のように曲りくねつた阿武隈川の白い流れが、晴れた日には一層美しく眺められる。また一方には、スカイラインを通る自動車の色が雑木林を通して時々反射するのも印象的だ。

この辺りからは樹木はすつかり姿を消し、かわりに高山植物とゴロゴロした大きな石に重くなつた足がつまづく。いよいよ鉄山。海抜一七〇一メートル。四方は大小の山に囲まれ、火山灰と岩で一層足場が悪い。直下に噴火口沼の平と山ひだの硫黄気の混つた色合いがきれいだ。雄大な磐梯も真近かにそびえ、その下には桧原湖などの湖沼が点々と、裏現できないほど自然美を堪能できる。

山頂に立つて深呼吸するとき、山の空気のうまさを改めて味わい山を愛する者だけの特権を得る。それ故私は限りなく山を愛する。

やがて馬の背に出ると、左下にくろがね小屋が見え、沼の平から吹上げる硫黄の含んだ風を体に受けながら暫らく行くと山頂である。下界から見える乳房沼の山も、ここからはサビた鉄色の男性的な岩肌だ。

頂上から眺められる会津の山々は、霞も和尚も深い山並みも手にとるようだ。郡山の工場の煙。二本松、本宮の町並みがパノラマの如く展開する。三十分ほど休めば充分に空気のうまさは満喫できる。

都会に生活する諸兄も多いことであるが、郷里の山々は特に空気も眺めも一段ときれいに感じられることと思う。

帰途は岳と中の沢と福島に温泉を控え、一汗流すもまた爽快。一泊のレクリーションには最適で静かな山の湯も楽しめよう。

いささかP・R気味になつてしまつたが、わが郷土の美しい山に何時の日か諸兄達と一緒に登つて見たいものである。

（写真は沼の平）

各支部地域の方へ

各支部の地域内に在住の方で、まだ支部との連絡をとれてない方がありましたら、左記え連絡して下さい。

▼関東支部（栃木を除く関東各地域）東京都品川区大井二葉町六の三九一坂井アパート内　高原広康

▼茨城支部（茨城県下全域）茨城県日立市鬼平、日立製作所　鬼平寮二一　近内功夫

▲都宮支部（栃木県下全域）宇都宮市春日町六七八　雄飛寮　増子禎佑

世界の一流を自負

―伝統を守る義務―

―(4)―

日本鋼管　鶴見造船所

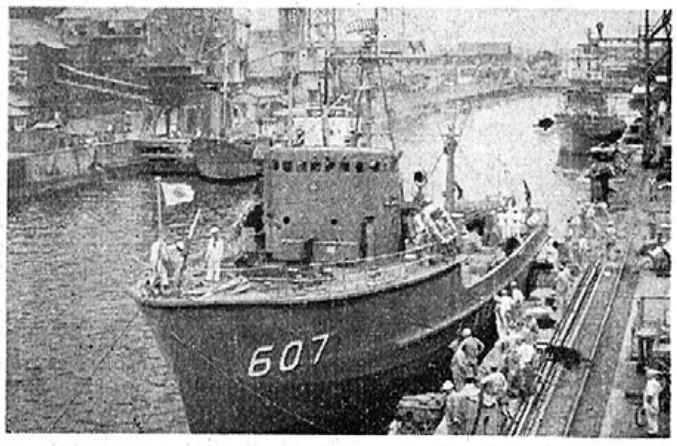
〔二期機械〕

会田照男

観衆の注視の下に、盛鯨人のふり下ろす銀の斧に、船首のクス玉が割れ、七色のテープの流れの中から数十羽の鳩が飛び立つ、興奮の渦中を数万トンの船が二度と戻ることのない船台から静かに滑り下りて行く。これは何処の造船所にも見られる池水式風景です。

地味な鉄鋼製造を看板とする日本鋼管において、この感激を持ち得る工場の一つである当所の私達の職場を簡単に紹介しましよう。

当所は油槽船、貨物船、鉱石運搬船、掃海艇等の新造と、フリーピストンガスタービン、鉄骨建築、大径厚板管製造等の陸上工事と半々位の割合で行なつています。従つて設計関係も造船と鉄機関係に分離独立しており、私の務める艦艇設計はまた機密保持等の関係で造船設計部の中でも孤立しております。ここはまた防衛庁の掃海艇の設計もしており、その外に北大の深海潜水艇「くちしお」の設計もしました。



艤装工事が終了した掃海艇『さきと』

掃海艇は艦艇とは云へ、攻撃力を全然持たず、海中に布設された係維機雷、磁気機雷、音響機雷等の処置を任務とする特殊艇ですから他の船とは非常に異つた特徴を有します。三五〇トン程との大きさですが、鉄等の磁性材料は使用せず、船体は木造。機器類に用いる金属も銅合金、アルミ合金、不銹鋼、合成樹脂等　磁気率の低い材料を使用しております。そのため異金属腐蝕による雷食や、熔接による組織変化、内部応力による腐蝕の問題が出たり、主機に高速ディゼルを使用しているため、振動と騒音が非常に激しいので防振耐振装置や防音消音対策に大分苦しめられました。

艦艇は長装運転が入るため試験期間が非常に長いので、その間に振動計や騒音計を持ち込み、測定する傍ら分析し、原因究明や効果を調査するのですが、限定された時間内で行なうため、まるで戦場のようです。海上が荒れたときの苦痛はまた格別、経験者でないとわからないでしょう。

商船関係は現在まで四万七千トンの油槽船を建造しましたが、今度、六万七千五百トンの油槽船を建造することになり、既に設計は終了しています。商船は機船上の経済性からますます大型化する傾向にありますが、余り大きくなると船に乗つている情感がわかないから不良説です。

艦艇の総合化といわれる造船業は仕事としては非常に面白いものですが、最近海運界の不況に伴つて造船ブームも去り、陸上工事への比重が六割位に強くなつている将来もこれ位の比率で進められる事と思いますが、如何せん受注契約によるので作業改善や企業合理化など一層進めないと造船は片手間に行うというような事にならないとも限りません。

世界の一流造船国であるという自負の下に、伝統を守り、また発展させるためのアンカー、それは私達に課せられた義務といえましよう。

（造船設計部艦艇設計課機関係勤務）

三君、母校で教鞭

母校で教鞭をとつている会員が今年で三名になり、三君とも母校であるだけに一層張切つており、生徒間の親しみも深まつて仲々の活躍ぶりを発揮している。

▽郡司一弘君（三工化）

学部化学科を卒業し、三十五年九月より勤務。化学を担当しているが、人柄の良さとスマートぶりは生徒間でも人気がある。

▽橋本正美君（一建築）

学部建築科を卒業。今年四月より勤務。以後建築科のルーキーとして搾前のファイトを発揮、有望なる将来を期待されている。

▽太田興亜君（四土木）

国士館大学体育科出身。今年四月より勤務。体育を担当するだけに仲々の張切りようで、生徒との年令差が少ないだけに一層親しみもあり、体育面の向上に努力を続けている。

36年度会計収支決算報告

【収入の部】	
前年度繰越金	25.510
8期生入会・年会費	177.300
36年会費	6.700
銀行預金利息	1.601
計	211.111
【支出の部】	
名簿関係費	71.286
入会金関係費	2.000
バッヂ代	18.900
役員会費	1.640
総会費	905
出張旅費	1.760
支部通信費	15.000
事務費	500
新聞雑費	1.170
計	113.161
差引残金	97.950　次年度繰越

以上の通り相違ありません。

36.12.15　会計　広長威彦、柳沼力夫

お知らせ

◎原稿募集

第六号の原稿を募集いたしております。職場体験、風土記、随筆、傑作写真（ギヤビネ版）その他多数投稿して下さい。締切は九月三十日。

◎年度会費納入お願い

年度会費百円の受付を始めます。

◎住所の連絡

会員の住所または勤務先が変更された場合には、必ずお知らせ下さい。

以上の連絡納入先は整理の都合上、広長威彦（郡山市赤木町一七八）宛に願います。

▼世は好況とか。そんなものどこ吹く風、われら編集手には値上りブームが頭に来る、資料も上つてはますます響く。いやな話はよしましよう。何はともあれ牛歩の発展で今年も終るか。明くれば寅年千里の目標を一気に進まん。

▼第五号もようやく間に合つた。恒例ながら原稿不足は頭痛のタネ。ご多用の折ご執筆下さつた米良先生には一同感謝。地域的に偏より過ぎるとの声あり、全国の在住者から選んで依頼するも、全て弾丸の如し。消息不明かサツパリ。止むを得ん。

▼編集の夜、外はひどい雪降り。ストーブの暖も消えかかる。今年の冬はめつぽう寒い。北も南も風邪に御用心。佳いなき年を。

（H・H）